

コフロック

屋外型窒素発生装置シリーズに11kW、15kWを追加

コフロック（京都府京田辺市、小島望社長）は屋外型ガス発生装置『GENER-BASEシリーズ』（窒素発生装置）のラインナップへ新たに11kW、15kWを加え12月から受注販売を開始した。

同シリーズは2018年から販売開始した屋外に設置出来るガス発生装置（本誌No.896既報）である。これまで窒素発生装置としては7.5kWと22kWを展開してきたが、中間機種として新たに2機種を加えた。

特長は従来機種同様屋外型ボンネット内にPSAやコンプレッサーなど構成機器をワンパッケージ化したことだ。屋内品を屋外に設置する際に必要となる簡易建屋や配管工事など付帯工事が不要で設置



新たにシリーズに加わった15kWタイプ

面積も約30%削減出来るという。

具体的なサイズは11kWがW1550×D1400×H1930mm、15kWがW1750×D1400×H1930mmとなる。稼働時の騒音も60db以下まで抑えている。これは『生活騒音の現状と今後の課題（環境省）』において日常生活レベルの騒音とされている。

船井厚志フローステム事業部事業部長は「従来2機種は既存市場を中心に新規のお客様に採用頂くことが出来た。新たにラインナップへ加えた追加機種についても設置スペースや騒音がネックとなり導入を見送ってきたお客様を対象に提案営業していきたい」とする。

定価は11kWが1600万円、15kWが2000万円、初年度販売目標台数は2機種合計で20台。